

坂仙気

2018.12.22

未来図会議の地道な活動

心を通わせ合うまちをつくり上げようと、陸前高田市民がさまざまなテーマを設けて話し合っている同市未来図会議。毎回、参加者が熱心に意見を交わしており、今月もその会合の様子を弊紙で紹介した。

同会議は、「はまっつけらいん（仲間に入れて）、かだっつけらいん（話しましよう）運動」略称・はまかだを普及し、誰もが住みよいまちとするため同市が推進する「ノーマライゼーション」という言葉のいらぬまちづくり」に寄与しようとして立ち上げられた。昨年度まで保健・医療・福祉分野の関係者が定期

的に集い、「はまかだ」に関するさまざまなテーマのアイデアを出し合ってきたが、本年度はこれまでの活動成果を踏まえて活動を発展させた。市民や他分野の職種の人も巻き込み、「オールたかた」で情報やヒントを共有する場と位置づけ、まちづくりを手がけるNPO法人など、幅広い業種の関係者が企画・運営段階から携わるようになった。

今月の会議は、初めて「食」をテーマに設定し、市民ら約50人が参加。お茶っこ会を通じて生まれる「はまかだ」の事例を学んだうえ、話しながら食事する意義などにつ

いてグループごとに話し合った。

グループワークでは毎回参加者が積極的に協議し、テーブルごとにつながるの輪ができていく。あとは、その小さな輪を、地域の至る所で「はまかだ」しながら広げていくだけ。目には見えず、時間もかかる地味な活動だが、いつしか「大輪」が咲いた時、「分け隔てなく、誰もが人の輪の中に入っている陸前高田っていいところ」と、同市を訪れた外部の人に感じてもらえるのだろう。

本年度最後の会議は2月15日（金）、高田町の市コミュニティホールで開催される予定。一人でも多くの人に参加してもらおうと、一大輪を咲かせるはじめての一步となる。

（信）